

科目名	経営情報研究演習 I			担 当 教 員 : アリ, ファテヘルアリム F.
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	3 1 3	火 : 10 : 40 ~ 12 : 10 火 : 13 : 10 ~ 14 : 40

1. 講義内容

情報システム構築と活用 (Web アプリケーション, 計算知能, ネットワーク等) に関する研究を行う。

2. 履修要件

3. テキスト

各自の研究テーマに合わせて決める。

4. 参考書

5. 講義予定

前学期

第 1 回	}	オリエンテーション
第 2 回		研究構想検討
第 3 回		〃
第 4 回		〃
第 5 回	}	〃
第 6 回		基礎文献収集と発表
第 7 回		〃
第 8 回		〃
第 9 回	}	〃
第 10 回		〃
第 11 回		研究テーマを決定と基本勉強
第 12 回		〃
第 13 回	}	〃
第 14 回		〃
第 15 回		〃

後学期

第 1 回	}	オリエンテーション
第 2 回		研究計画
第 3 回		研究テーマ研究説明
第 4 回		〃
第 5 回	}	〃
第 6 回		研究中間発表
第 7 回		〃
第 8 回		〃
第 9 回	}	〃
第 10 回		〃
第 11 回		研究成果発表
第 12 回		〃
第 13 回	}	〃
第 14 回		〃
第 15 回		〃

6. 評価方法

研究内容 (50点), 研究成果 (50点) によって評価する。

7. その他

履修の心得として, 自主的に研究を行うこと

科目名	経営情報研究演習 I			担 当 教 員 : 宮 平 栄 治
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	315	火曜日・木曜日:14時50分～16時20分
1. 講義内容				
研究演習 I では、修士論文の作成方法と目的を学ぶ。すなわち、これから深めようとする領域の全体像を握するとともに、極めようとする分野と全体との関連性を体得する。修士論文作成は、理論、比較、実証、および事例研究の基礎作りでもある。そのため、研究演習 I では関連領域の学問体系の把握に努め、把握後は各自のテーマに適した研究方法で修士論文作成を行う。すなわち、文献研究では、オリジナルな内容を伝える原著や原論文をまとめ、多角的視点から研究を行わねばならない。				
2. 履修要件				
真摯な態度で研究できる者を望む。				
3. テキスト				
修士論文テーマ決定後、研究テーマに即した原著論文や著作がテキストとなる。				
4. 参考書				
適宜指示する。				
5. 講義予定				
第 1 回	(/)	前 期 科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点	第 1 回	(/) 後 期 関連論文文献研究報告①
第 2 回	(/)	既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②	第 2 回	(/) 関連論文文献研究報告②
第 3 回	(/)	オリジナルな論文ー現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立	第 3 回	(/) 関連論文文献研究報告③
第 4 回	(/)	純粋理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究	第 4 回	(/) 関連論文文献研究報告③
第 5 回	(/)	静学分析・比較静学分析・動学分析	第 5 回	(/) 関連論文文献研究報告④
第 6 回	(/)	原因と相関関係、尺度と量質概念	第 6 回	(/) 関連論文文献研究報告⑤
第 7 回	(/)	問題とは	第 7 回	(/) 中間報告①
第 8 回	(/)	問題発見と解決	第 8 回	(/) 関連論文文献研究報告⑥
第 9 回	(/)	クリティカルリーディングと引用上の諸注意	第 9 回	(/) 関連論文文献研究報告⑦
第 10 回	(/)	修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)	第 10 回	(/) 関連論文文献研究報告⑧
第 11 回	(/)	関連論文文献研究と発表①	第 11 回	(/) 関連論文文献研究報告⑨
第 12 回	(/)	関連論文文献研究と発表②	第 12 回	(/) 関連論文文献研究報告⑩
第 14 回	(/)	関連論文文献研究と発表③	第 14 回	(/) 関連論文文献研究報告⑪
第 14 回	(/)	関連論文文献研究と発表④	第 14 回	(/) 関連論文文献研究報告⑫
第 15 回	(/)	関連論文文献研究と発表⑤	第 15 回	(/) 中間報告②
6. 評価方法				
① 修士論文文献研究・・・50 点				
② 文献研究発表・・・・・・・50 点				
7. その他				
夏期休暇中は、図書館等で原著の検索等を行うこと。				

科 目 名	経営情報研究演習 I			担 当 教 員 : 金城 亮
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I .			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	研 3 1 4	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 講義内容

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。

2. 履修要件

学部・学群における心理学関連科目の単位を履修済みであることが望ましい。

学部・学群において心理学分野の卒業研究を執筆済みであることが望ましい。

3. テキスト

研究テーマに応じて適宜指定

4. 参考文献

・加藤・廬・石村 2007 「SPSS でやさしく学ぶアンケート処理」(第2版) ￥2625.

その他, 研究領域に応じて適宜指定

5. 講義予定

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	予備調査／実験データの収集①
第 2 回	研究テーマ・仮説設定	第 17 回	予備調査／実験データの収集②
第 3 回	課題関連研究の文献検索①	第 18 回	予備調査／実験データの収集③
第 4 回	課題関連研究の文献検索②	第 19 回	予備調査／実験データの収集④
第 5 回	課題関連研究の文献講読①	第 20 回	データ入力・集計①
第 6 回	課題関連研究の文献講読②	第 21 回	データ入力・集計②
第 7 回	課題関連研究の文献講読③	第 22 回	統計分析①
第 8 回	統計分析の基礎知識	第 23 回	統計分析②
第 9 回	統計分析ソフト：SPSS の使用法①	第 24 回	図表作成①
第 10 回	統計分析ソフト：SPSS の使用法②	第 25 回	図表作成②
第 11 回	尺度／実験課題の検討①	第 26 回	結果の解釈・考察①
第 12 回	尺度／実験課題の検討②	第 27 回	結果の解釈・考察②
第 13 回	研究計画の策定①	第 28 回	研究レポート作成①
第 14 回	研究計画の策定②	第 29 回	研究レポート作成②
第 15 回	研究計画の策定③	第 30 回	研究成果報告

6. 評価方法

①演習活動状況 40点

②研究報告書等 60点

計 100点

7. その他

演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習 I			担 当 教 員 : 中里 収
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	312	火曜・木曜 4 限 (14:30 ~ 16:00)

1. 講義内容

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱うシステムを題材にして、プログラミング技法および研究方法を習得する。

前半は文献研究、発表練習などをおこなう。

後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。

2. 履修要件

プログラミングの経験があることがのぞましい。

3. テキスト

演習の中で資料を配布する。

4. 参考書

堂下 修司 他 「音声による人間と機械の対話」 オーム社 (4500 円)

田窪行則 他 「言語の科学2 音声」 岩波書店 (3800 円)

5. 講義予定

前学期

第 1 回 (4/12) オリエンテーション
 第 2 回 (4/19) 文献検索方法
 第 3 回 (4/26) 〃
 第 4 回 (5/10) 文献研究・論文講読
 第 5 回 (5/17) 〃
 第 6 回 (5/24) 〃
 第 7 回 (5/31) 〃
 第 8 回 (6/7) 〃
 第 9 回 (6/14) レポート作成法
 第 10 回 (6/21) 〃
 第 11 回 (6/28) プレゼンテーション練習
 第 12 回 (7/ 5) 〃
 第 13 回 (7/12) 〃
 第 14 回 (7/26) 〃
 第 15 回 (8/ 2) 〃

後学期

第 1 回 オリエンテーション・研究計画
 第 2 回 システム設計法
 第 3 回 〃
 第 4 回 プログラミング方法
 第 5 回 〃
 第 6 回 〃
 第 7 回 〃
 第 8 回 〃
 第 9 回 システム評価方法
 第 10 回 〃
 第 11 回 評価実験
 第 12 回 〃
 第 13 回 データ処理法
 第 14 回 〃
 第 15 回 〃

6. 評価方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

7. その他

科目名	経営情報研究演習Ⅰ			担 当 教 員：木村 堅一
科目名(英語)	Seminar in Management and Information SciencesⅠ.			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	310	月曜日：13:10～14:40 火曜日：13:10～14:40

1. 講義内容

本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。

2. 履修要件

事前に、指導の可否について担当教員の承諾を受けておくこと。

3. テキスト

特になし

4. 参考書

特になし

5. 講義予定

	前期		後期	
第 1 回	(/)	各自の研究実績の紹介	(/)	予備実験あるいは予備調査 (1)
第 2 回	(/)	文献収集・先行研究の紹介 (1)	(/)	" (2)
第 3 回	(/)	" (2)	(/)	" (3)
第 4 回	(/)	" (3)	(/)	発表会リハーサル
第 5 回	(/)	" (4)	(/)	研究計画発表会
第 6 回	(/)	" (5)	(/)	データ収集 (1)
第 7 回	(/)	問題設定 (1)	(/)	" (2)
第 8 回	(/)	" (2)	(/)	" (3)
第 9 回	(/)	" (3)	(/)	" (4)
第10回	(/)	" (4)	(/)	" (5)
第11回	(/)	" (5)	(/)	論文添削 (1)
第12回	(/)	研究計画 (1)	(/)	" (2)
第13回	(/)	" (2)	(/)	" (3)
第14回	(/)	" (3)	(/)	" (4)
第15回	(/)	" (4)	(/)	修士論文中間発表会

6. 評価方法

- ① 発表・討議 50点
- ② 論文執筆 50点
- 合計 100点

7. その他

特になし

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担 当 教 員 : アリ, ファテヘルアリム F.
科目名(英語)	Seminar in Management and Information SciencesⅡ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	3 1 3	火: 10:40~12:10 火: 13:10~14:40

1. 講義内容

修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し, 修士論文を完成させる。

2. 履修要件

3. テキスト

各自の研究テーマに合わせて決める。

4. 参考書

各自の研究テーマに合わせて決める。

5. 講義予定

前学期

第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 研究実験とその成果の報告
第 3 回 研究実験とその成果の報告
第 4 回 研究実験とその成果の報告
第 5 回 研究実験とその成果の報告
第 6 回 研究実験とその成果の報告
第 7 回 研究実験とその成果の報告
第 8 回 研究実験とその成果の報告
第 9 回 研究実験とその成果の報告
第 10 回 研究実験とその成果の報告
第 11 回 研究実験とその成果の報告
第 12 回 研究実験とその成果の報告
第 13 回 研究実験とその成果の報告
第 14 回 研究実験とその成果の報告
第 15 回 研究実験とその成果の報告

後学期

第 1 回 中間報告
第 2 回 中間報告
第 3 回 論文作成
第 4 回 論文作成
第 5 回 論文作成
第 6 回 論文作成
第 7 回 論文作成
第 8 回 論文作成
第 9 回 論文作成
第 10 回 論文作成
第 11 回 研究成果発表
第 12 回 研究成果発表
第 13 回 研究成果発表
第 14 回 研究成果発表
第 15 回 研究成果発表

6. 評価方法

出席状況 (10点), 研究内容 (40点), 研究成果 (50点) によって評価する。

7. その他

履修の心得

自主的に研究を行なうこと。

条件

M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。

その他

学会発表も目指すこと

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担 当 教 員：宮平 栄治
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences Ⅱ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	315	火曜日・木曜日：14時50分～16時20分

1. 講義内容

研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。

2. 履修要件

- ① 経営情報研究演習Ⅰを修得した者、
- ② 毎回、報告を行い、論文指導を欠かさず受講できる者

3. テキスト

修士論文テーマ決定後、研究テーマに即した原著論文や著作がテキストとなる。

4. 参考書

適宜指示する。

5. 講義予定

前 期		後 期	
第1回	(/) 関連論文文献研究と発表①	第1回	(/) 修士論文第1章報告①
第2回	(/) 関連論文文献研究と発表②	第2回	(/) 修士論文第1章報告②
第3回	(/) 関連論文文献研究と発表③	第3回	(/) 修士論文第2章報告①
第4回	(/) 関連論文文献研究と発表④	第4回	(/) 修士論文第2章報告②
第5回	(/) 関連論文文献研究と発表⑤	第5回	(/) 修士論文第3章報告①
第6回	(/) テーマ選定と中間発表	第6回	(/) 修士論文第3章報告②
第7回	(/) 関連論文文献研究と発表⑥	第7回	(/) 修士論文第4章報告①
第8回	(/) 関連論文文献研究と発表⑦	第8回	(/) 修士論文第4章報告②
第9回	(/) 関連論文文献研究と発表⑧	第9回	(/) 中間報告
第10回	(/) 関連論文文献研究と発表⑨	第10回	(/) 修士論文結論報告①
第11回	(/) 関連論文文献研究と発表⑩	第11回	(/) 修士論文結論報告②
第12回	(/) 修士論文章立て	第12回	(/) 修士論文の全体構成確認①
第14回	(/) 修士論文章立てとクロッキー	第14回	(/) 修士論文の全体構成確認②
第14回	(/) 修士論文章立てと具体例	第14回	(/) 修士論文の校正
第15回	(/) 修士論文の構成	第15回	(/) 修士論文結論報告①

6. 評価方法

修士論文	80点
試問	20点
合 計	100点

7. その他

長期休暇中は努めて文献研究を行うこと。

科 目 名	経営情報研究演習Ⅱ			担 当 教 員：金城 亮
科目名(英語)	Seminar in Management and Information SciencesⅡ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	研 3 1 4	火曜4限・木曜2限

1. 講義内容

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。受講生には主体的に研究活動に取り組む姿勢を期待する。

2. 履修要件

経営情報研究演習Ⅰ（心理学領域）の単位を修得済みであること。

3. テキスト

研究テーマに応じて適宜指定

4. 参考文献

- ・石村 貞夫 2005 「SPSS による多変量データ解析の手順」（第3版） 東京書籍 ￥2940
研究領域に応じて適宜指定

5. 講義予定

第 1 回	研究計画①：研究テーマ	第 1 6 回	結果の解釈・考察①
第 2 回	研究計画②：研究の背景と目的	第 1 7 回	結果の解釈・考察②
第 3 回	研究計画③：仮説の設定	第 1 8 回	修士論文まとめ
第 4 回	研究計画④：研究方法（手続き）	第 1 9 回	修士論文まとめ
第 5 回	研究計画⑤：研究方法（要因計画／尺度）	第 2 0 回	修士論文まとめ
第 6 回	本実験／本調査実施	第 2 1 回	修士論文まとめ
第 7 回	本実験／本調査実施	第 2 2 回	修士論文まとめ
第 8 回	本実験／本調査実施	第 2 3 回	今後の課題検討
第 9 回	本実験／本調査実施	第 2 4 回	今後の課題検討
第 1 0 回	データ入力・集計①	第 2 5 回	卒業論文提出
第 1 1 回	データ入力・集計②	第 2 6 回	審査・報告会準備（要旨作成）
第 1 2 回	統計分析①	第 2 7 回	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第 1 3 回	統計分析②	第 2 8 回	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第 1 4 回	図表作成①	第 2 9 回	修士論文審査・報告会
第 1 5 回	図表作成②	第 3 0 回	総まとめ

6. 評価方法

①演習活動状況	20点
②口頭発表報告	30点
③修士論文	50点
計	100点

7. その他

研究成果について、全国学会での発表等にも積極的に挑戦して欲しい。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担 当 教 員 : 中里 収
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences Ⅱ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	312	火曜・木曜 4限 (14:30 ~ 16:00)

1. 講義内容

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱うシステムを題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。

前半はシステム設計、システム評価実験を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。

2. 履修要件

原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。

3. テキスト

演習の中で資料を配布する。

4. 参考書

堂下 修司 他 「音声による人間と機械の対話」 オーム社 (4500 円)

田窪行則 他 「言語の科学2 音声」 岩波書店 (3800 円)

5. 講義予定

前学期

第 1 回 オリエンテーション
 第 2 回 システム設計法
 第 3 回 "
 第 4 回 プログラミング方法
 第 5 回 "
 第 6 回 "
 第 7 回 "
 第 8 回 "
 第 9 回 システム評価方法
 第10回 "
 第11回 評価実験
 第12回 "
 第13回 データ処理法
 第14回 "
 第15回 "

後学期

第 1 回 オリエンテーション・研究計画
 第 2 回 論文執筆方法
 第 3 回 "
 第 4 回 "
 第 5 回 "
 第 6 回 "
 第 7 回 "
 第 8 回 プレゼンテーション
 第 9 回 論文執筆方法
 第10回 "
 第11回 "
 第12回 "
 第13回 "
 第14回 プレゼンテーション
 第15回 "

6. 評価方法

修士論文内容 (80 点) 口頭発表内容 (20 点) で評価する。

7. その他

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担 当 教 員：木村 堅一
科目名(英語)	Seminar in Management and Information SciencesⅡ.			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	310	月曜日： 13:10 ～ 14:40 火曜日： 13:10 ～ 14:40

1. 講義内容

本演習は、経営情報研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。

2. 履修要件

「経営情報研究演習Ⅰ」の単位取得者であり、指導の可否を担当教員から事前に承諾を受けた者に限る。

3. テキスト

演習の中で指定する。

4. 参考書

演習の中で指定する。

	前期		後期	
第 1 回	(/)	各自の研究実績の紹介	(/)	修士論文の概要作成 (1)
第 2 回	(/)	関連する先行研究の紹介 (1)	(/)	〃 (2)
第 3 回	(/)	〃 (2)	(/)	〃 (3)
第 4 回	(/)	〃 (3)	(/)	報告会リハーサル (1)
第 5 回	(/)	〃 (4)	(/)	〃 (2)
第 6 回	(/)	〃 (5)	(/)	論文コメントと修正 (1)
第 7 回	(/)	問題の再構成 (1)	(/)	〃 (2)
第 8 回	(/)	〃 (2)	(/)	〃 (3)
第 9 回	(/)	〃 (3)	(/)	〃 (4)
第10回	(/)	〃 (4)	(/)	〃 (5)
第11回	(/)	〃 (5)	(/)	論文コメントと修正 (1)
第12回	(/)	追加的な研究計画 (1)	(/)	〃 (2)
第13回	(/)	〃 (2)	(/)	〃 (3)
第14回	(/)	〃 (3)	(/)	〃 (4)
第15回	(/)	〃 (4)	(/)	〃 (5)

6. 評価方法

- ① 発表・討議 50点
- ② 論文執筆 50点
- 合計 100点

7. その他

特になし

科目名	経営活動情報特論			担 当 教 員：
科目名(英語)	Advanced Lecture in Information Management Activities			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後		

1. 講義内容

情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策について考察する。
 毎回、ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を読んできて発表し、意見交換する形式を考えている。
 情報化社会における経営活動の変化を絶えず推し進めてくる大きな力を感じ取り、それが動いていく方向を読み取る目を養う。伝統的な理論に対し疑問点を見つけ、自分なりの独自性を出した理論を考える姿勢を身につけて欲しい。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

最新の資料はインターネット上にあるため、適宜配布する。詳細は開講時に指示する

4. 参考書

最新の資料はインターネット上にあるため、適宜指示する。

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 情報経済社会
- 第 3 回 コンピュータの歴史
- 第 4 回 電子取引と B T O (Built to Order)
- 第 5 回 マルチメディアと生活
- 第 6 回 マルチメディアとビジネス
- 第 7 回 グループウェア、S F A (Sales Force Automation)
- 第 8 回 テレワーキング
- 第 9 回 ビジネスモデル特許
- 第10回 データベースマーケティング
- 第11回 ビジネスインテリジェント (データマイニング)
- 第12回 S a a S (Software as a Service)
- 第13回 クラウド・コンピューティング
- 第14回 ベンチャービジネス
- 第15回 まとめ

6. 評価方法

発表とレポート	60点
講義への参加の積極性	40点
合 計	100点

7. その他

授業は、事前に指示した資料を読み、その内容を発表しディスカッションする形式とする。

科目名	地域活性化特論			担 当 教 員 : 宮平 栄治
科目名(英語)	Regional Vitalization Studies			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	315	火曜日・木曜日:14時50分~16時20分

1. 講義内容

沖縄県は島嶼県であり、地域活性化においても他地域とは異なる手法が必要である。そのため沖縄県においては一般的な地域活性化策を踏まえ沖縄県の特性を加味した地域活性のあり方が必要である。本講義においては、前述の沖縄県の地域特性を踏まえつつ、地域概念と活性化概念について経済理論、マーケティング論およびわが国や諸外国の地域活性化策の推移から把握し、地域活性化についての概念と目標を確定する。確定後は、事例研究をととして地域活性化においては、その地域の持つ地域資源の発見と商品化と産業化の必要性を理解する。商品化と産業化における比較優位性理論とマーケティングによる販売促進の重要性を学ぶ。また、地域活性化の担い手としての官・民・企業およびNPOの目標の共有化、リスク分散と協業の必要性を理解することである。

2. 履修要件

なし

3. テキスト

なし

4. 参考書

(1) チャールズ I. ジョーンズ著 香西泰監訳『経済成長理論入門—新古典派から内生的成長理論へ—』(日本経済新聞社 1999年9月)

(2) R.J.バロー著 大住圭介・大坂仁訳『経済成長の決定要因—クロス・カントリー実証研究—』(九州大学出版会)

(3) 藤川清史著『産業連関分析入門』(日本評論社 2005年6月)

(4) 北村行伸著『パネルデータ分析』(岩波書店 2005年2月)

(5) 蓑谷千鳳彦著『計量経済学—第3版—』(東洋経済新報社 1997年4月)

5. 講義予定

第1回(/) 地域概念—国際経済と国内経済の比較から—

第2回(/) 地域経済の主体と地域活性を見る視点

第3回(/) 経済発展できない理由—経路依存性、不完全な情報と複雑性、インフォーマルな制度の漸進性

第4回(/) レントシーキング

第5回(/) 地域活性化概念—マクロ分析①—経済自立と自律

第6回(/) 地域活性化概念—マクロ分析②—IS分析

第7回(/) 地域活性化概念—マクロ分析③—産業連関分析

第8回(/) 地域活性化概念—マクロ分析④—クラスターモデル

第9回(/) 地域活性化概念—マクロ分析⑤—ハロッド・モデル

第10回(/) 地域活性化概念—マクロ分析⑥—経済地理学

第11回(/) 地域活性化概念—ミクロ分析①—ブランド化

第12回(/) 地域活性化概念—ミクロ分析②—地域ブランド化

第13回(/) 地域活性化概念—ミクロ分析③—コミュニティビジネス、農商工連携など

第14回(/) 地域活性化例①—東京都三鷹市、北海道伊達市、ニセコ町

第15回(/) 地域活性化例②—沖縄県

6. 評価方法

① レポートを5回作成する。

② 1回のレポートの点数を20点とし、合計点数で評価する。

7. その他

① 大学院における修士課程の講義は修士論文作成に向けて講義を展開するので、目的意識を有した院生の受講を希望する。

③ 口頭発表の際は、レジュメを用意する。

④ 発表に対しては建設的な意見を述べ、その意見に対しては謙虚に応える。

科 目 名	経営戦略特論			担 当 教 員 : 林 優子
科目名(英語)	Management Strategy			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	後	308	火2限・3限

1. 講義内容

この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。

2. 履修要件

企業や経営に興味関心があるものが望ましい。

3. テキスト

オリエンテーション時に受講学生との相談によって決定する。そのため、多少講義予定が変更になることもありうる。

4. 参考文献

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論（新版）』2002年（有斐閣）3,150円
M. E. ポーター著土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫訳『競争優位の戦略』1985年（ダイヤモンド社）8,190円
など、ただし、必要に応じて紹介していく。

5. 講義予定

第1回（／） オリエンテーション
第2回（／） 経営戦略とは①
第3回（／） 経営戦略とは②
第4回（／） 競争戦略①
第5回（／） 競争戦略②
第6回（／） 事業システム戦略
第7回（／） ドメイン定義・次元
第8回（／） 経営資源展開の戦略①
第9回（／） 経営資源展開の戦略②
第10回（／） 経営資源展開の戦略③
第11回（／） 経営戦略と組織①
第12回（／） 経営戦略と組織②
第13回（／） 企業文化
第14回（／） 知識創造①
第15回（／） 知識創造②

6. 評価方法

本講義は、基本的に受講学生によるプレゼンテーションを中心に行うので、各テーマにそったレジュメを作成し、プレゼンテーションを行い、質疑・討論を行う、そして最後にレポートを提出してもらう。これらを総合的に評価する。

プレゼンテーション（レジュメ提出含む） 75点
レポート 25点 （内容・提出日については、講義中に指示をする）
合 計 100点

7. その他

科目名	ネットワーク産業特論			担 当 教 員 : 宮平 栄治
科目名(英語)	Networking Industry			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	315	火曜日・木曜日 : 14 時 50 分～16 時 20 分

1. 講義内容

この講義では、情報時代における市場、産業および企業の特徴、企業戦略と産業育成、誘致および連携に関して、経学の諸原理を援用させながら、市場、産業および企業を考察する。

2. 履修要件

なし

3. テキスト

適宜、資料を配布する予定である。

4. 参考書

- (1)R.J.バロー著 谷内 満訳『マクロ経済学』(多賀出版 1997年)
- (2)クロード・メイナード編著 中島正人・谷口洋志・長谷川啓之監訳『取引費用経済学―最新の展開―』(文眞堂 2002年12月)
- (3)柳川範之著『契約と組織の経済学』(東洋経済新報社 2000年4月)
- (4)佐々木広夫著『情報の経済学』(日本評論社 1991年3月)
- (5)ロナルド・H・コース著 宮沢健一・後藤晃・藤垣芳文訳『企業・市場・法』(東洋経済新報社 1992年10月)
- (6)植草益著『産業融合』(岩波書店 2001年1月)
- (7)今井賢一・金子郁容著『ネットワーク組織論』(岩波書店 1988年1月)
- (8)今井亮一・工藤教孝・佐々木勝・清水崇著『サーチ理論―分権的取引の経済学―』(東京大学出版会 2000年10月)

5. 講義予定

- 第1回 (4/11) なぜ企業が存在するのか
- 第2回 (4/18) 市場と企業の相違点
- 第3回 (4/25) 取引費用と比較制度分析
- 第4回 (5/9) 市場と企業の分析①―諸理論の紹介―
- 第5回 (5/16) 市場と企業の分析②―取引コスト理論とその限界―
- 第6回 (5/23) 市場と企業の分析③―エージェンシー理論とその限界―
- 第7回 (5/30) 市場と企業の分析④―制度化理論とその限界―
- 第8回 (6/6) 市場と企業の分析⑤―コンティジェンシー理論とその限界―
- 第9回 (6/13) 市場と企業の分析⑥―組織学習理論とその限界―
- 第10回 (6/20) 貨幣在庫理論とその援用①―貨幣在庫理論とは―
- 第11回 (6/27) 貨幣在庫理論とその援用②―貨幣在庫理論と取引費用―
- 第12回 (7/4) 探索失業理論とその援用①―統計学の基礎―
- 第13回 (7/11) 探索失業理論とその援用②―モデル展開―
- 第14回 (7/25) 通行料モデルとその援用①
- 第15回 (8/1) 通行料モデルとその援用②

6. 評価方法

- ① 講義中における口頭発表およびディスカッション・・・20点
 - ② レポート1回につき10点×4回＝40点
 - ③ 小テスト1回につき10点×4回＝40点
- 合計100点の合計点で評価する。

7. その他

<受験心得>

- ① 大学院における修士課程の講義は修士論文作成に向けて講義を展開するので、目的意識を有した院生の受講を希望する。
- ② 口頭発表の際は、レジュメを用意する。

科目名	情報交流特論			担 当 教 員 : 中里 収
科目名(英語)	Information Interaction			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	312	火曜・木曜 4限 (14:30～16:00)

1. 講義内容

本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。
 前半は計算機上でどのようにして音声データが処理されるかを学習する。
 後半は対話の理論を踏まえた上で、実際に対話データを収集・分析してみる。人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。
 また、この講義を通して、文献検索、データ処理、プレゼンテーション方法を学ぶ機会とする。「過去の事例を調査し論理的に思考し、わかりやすく説明する」という訓練でもある。

2. 履修要件

特になし。プログラミングの経験があることがのぞましい。

3. テキスト

講義の中で資料を配布する。

4. 参考書

海保博之 原田悦子	「プロトコル分析入門」	新曜社	(2500 円)
泉子・K・メイナード	「会話分析」	くろしお出版	(4300 円)
石崎雅人・伝康晴	「談話と対話」	東京大学出版会	(3800 円)

5. 講義予定

第 1 回 オリエンテーション・研究計画
 第 2 回 「話し言葉」と「書き言葉」の研究について
 第 3 回 コンピュータと音声 1・音声の物理的特徴
 第 4 回 コンピュータと音声 2・音素音節について
 第 5 回 コンピュータと音声 3・音声認識システムのしくみ
 第 6 回 コンピュータと音声 4・音声対話の特徴
 第 7 回 コンピュータと音声 5・音声言語処理
 第 8 回 文献研究
 第 9 回 〃
 第 10 回 対話データの収集方法
 第 11 回 〃
 第 12 回 対話データの処理方法
 第 13 回 〃
 第 14 回 プレゼンテーション(成果発表)
 第 15 回 〃

6. 評価方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

7. その他

科 目 名	小集団心理学特論			担 当 教 員 : 金城 亮
科目名(英語)	Psychology of Small Groups			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	研 3 1 4	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 講義内容

本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミックスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミックス研究において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行なう演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。

2. 履修要件

学部・学群における心理学関連科目の単位を履修済みであることが望ましい。

3. テキスト

斎藤勇 編 1987 『対人社会心理学重要研究集 1－社会的勢力と集団組織の心理－』 誠信書房

4. 参考文献

A. Zander 著 黒川正流・金川智恵・坂田桐子 訳 1996 『集団を活かす』 北大路書房
その他、適宜指定

5. 講義予定

- 第 1 回(4/11) オリエンテーション：小集団研究の意義と目的
- 第 2 回(4/18) 小集団研究の方法
- 第 3 回(4/25) 研究事例紹介Ⅰ
- 第 4 回(5/09) 研究事例紹介Ⅱ
- 第 5 回(5/16) 研究事例紹介Ⅲ
- 第 6 回(5/23) 研究事例紹介Ⅳ
- 第 7 回(5/30) 研究事例紹介Ⅴ
- 第 8 回(6/06) 課題演習Ⅰ：研究テーマの選定
- 第 9 回(6/13) 課題演習Ⅱ：研究計画
- 第 10 回(6/20) 課題演習Ⅲ：研究手続きの検討、実施準備
- 第 11 回(6/27) データ収集Ⅰ（実験 or 調査）
- 第 12 回(7/04) データ収集Ⅱ（実験 or 調査）
- 第 13 回(7/25) データの集計と統計分析
- 第 14 回(8/01) 考察、研究報告書作成
- 第 15 回(8/08) まとめ・報告書提出

6. 評価方法

- ①授業中の分担発表 30点
- ②研究報告書 70点
- 合 計 100点

7. その他

<履修の心得>

自主的・自立的な参加を求める。

演習課題は講義時間以外の時間も利用してデータ収集、分析を行なうことになる。他の受講生と協力しながら共同研究を進めることのできる協調的な姿勢も要求される。

科目名	人的資源管理特論			担 当 教 員 : 金城 亮
科目名(英語)	Human Resource Management			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	研314	火曜4限・木曜2限

1. 講義内容

「人的資源管理」の特質と問題点を明らかにする。さらに産業組織心理学の知見に基づき、被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

適宜指定する。

4. 参考書

岩内亮一・梶原 豊 2004 現代の人的資源管理 学文社 ￥2,205 (税込)

山下洋史 2006 情報化時代の人的資源管理 東京経済情報出版 ￥2,940 (税込)

田尾雅夫 1999 組織の心理学〔新版〕 有斐閣ブックス ￥2,200

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション：人的資源管理の特徴
- 第 2 回 組織の論理①：人的資源管理の課題
- 第 3 回 組織の論理②：雇用制度と賃金制度の変化
- 第 4 回 組織の論理③：能力開発と教育訓練
- 第 5 回 組織の論理④：人的資源管理とジェンダー
- 第 6 回 組織の論理⑤：リーダーシップとその効果
- 第 7 回 被雇用者の観点①：働くことの意味とキャリア発達
- 第 8 回 被雇用者の観点②：組織コミットメント
- 第 9 回 被雇用者の観点③：職場集団のモラル
- 第10回 被雇用者の観点④：新規就職者の組織適応と態度変容
- 第11回 被雇用者の観点⑤：サイバー就職コミュニティと就職活動
- 第12回 人的資源管理における情報化①：情報・知識共有
- 第13回 人的資源管理における情報化②：人事情報管理
- 第14回 ディスカッション：人的資源管理
- 第15回 まとめ・課題レポート

6. 評価方法

講義参加・報告発表 30点

課題レポート 70点

合 計 100点

7. その他

担当講師からの一方的な講義とならぬよう、課題研究の報告、ディスカッション等を交えながら進めていきたい。

科目名	比較経営学特論			担 当 教 員 : 宮城 敏郎
科目名(英語)	Comparative Management			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	204	月曜日 14:50～16:30

1. 講義内容

経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R.H.コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O.E.ウィリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A.D.チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。

本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。

2. 履修要件

経済学、経営学の知識を備えていることが望ましい。

3. テキスト

日本比較経営学会編『会社と社会比較経営学のすすめ』文理閣、2006年 価格 3150円

4. 参考書

太田正孝『多国籍企業と異文化マネジメント』同文館出版、平成20年 価格 3675円

5. 講義予定

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 比較経営学の課題と方法1
- 第3回 比較経営学の課題と方法2
- 第4回 変化する制度レジームとビジネスシステム
- 第5回 アメリカ企業社会とステイクホルダー論
- 第6回 変貌するアメリカ企業と社会
- 第7回 中国の社会主義市場経済体制と国有企業の再編
- 第8回 EU社会の変貌と企業
- 第9回 ロシアにおける企業社会の変貌
- 第10回 日本のコーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任
- 第11回 コーポレート・ガバナンスから見た企業と社会
- 第12回 社会的ネットワークから見た企業と社会
- 第13回 グローバル化における企業と社会
- 第14回 持続可能な発展と企業経営
- 第15回 現代企業社会の行方

6. 評価方法

発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）

7. その他

科目名	e-ビジネス特論			担 当 教 員：清水 則之
科目名(英語)	Advanced Lecture in e-Business			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	集中講義 (前期)		

1. 講義内容

インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスに参入する方法、We bマーケティング、e-ビジネスの背景にあるテクノロジー等を研究し、新しいビジネスモデルを考察する。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

The e-Business Revolution (2nd Edition), Daniel Amor 著
詳細は開講時に指示する

4. 参考書

資料の多くはインターネット上にあるので、必要の都度指示する。

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 インターネットビジネス入門
- 第 3 回 オンライン・ビジネスの準備
- 第 4 回 テクノロジー
- 第 5 回 訴訟問題
- 第 6 回 We bマーケティング戦略
- 第 7 回 検索エンジン
- 第 8 回 ショッピングとORM (Operation Resource Management) ソリューション
- 第 9 回 インタラクティブ・コミュニケーション
- 第10回 We bテクノロジー
- 第11回 セキュリティ
- 第12回 ネット上の画像
- 第13回 ネットでの支払い
- 第14回 オープンソース
- 第15回 まとめ

6. 評価方法

発表とレポート	60点
講義への参加の積極性	40点
合計	100点

7. その他

授業は、事前に指示した資料を読み、その内容を発表しディスカッションする形式とする。

科目名	情報知能特論			担 当 教 員 : アリ, ファテヘルアリム F.
科目名(英語)	Computational Intelligence			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	313	火: 10:40~12:10 火: 13:10~14:40

1. 講義内容

計算機による知識情報処理の基本的考え方, 方法論, 応用, 更にその論文等の読みとまとめについて学ぶ。

2. 履修要件

なし

3. テキスト

別紙に記載

4. 参考書

別紙に記載

5. 講義予定

- 第 1 回 計算知能 (Computational Intelligence) とは
- 第 2 回 ソフトコンピューティング
- 第 3 回 ソフトコンピューティング
- 第 4 回 ニューラルネット
- 第 5 回 ニューラルネット
- 第 6 回 ニューラルネット
- 第 7 回 遺伝的アルゴリズム
- 第 8 回 遺伝的アルゴリズム
- 第 9 回 進化プログラミング
- 第10回 ファジイ推論とファジイ制御
- 第11回 ファジイ推論とファジイ制御
- 第12回 計算知能の実用化応用技術
- 第13回 計算知能の実用化応用技術
- 第14回 計算知能の実用化応用技術
- 第15回 計算知能の実用化論文のまとめ

6. 評価方法

学習態度 (50点)・期末レポート (50点) によって評価する。

7. その他

教育目標

計算知能の実用化と技術について学び, 応用の事例に検討する。

科 目 名	会計学特論			担 当 教 員 ：仲尾次 洋子
科目名(英語)	Advanced Accounting			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	302	月2限・火2限

1. 講義内容

企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとして IFRS（国際財務報告基準）の導入が必要とされている。本講義では、IFRS を念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、ケーススタディを行う。

2. 履修要件

簿記の基礎知識を有することが望ましい。

3. テキスト

適宜、指示する。

4. 参考文献

松村勝弘・松本敏史『エクセルでわかる企業分析・決算書』東京書籍 2003 年
金児昭『英語で読む決算書が面白いほどわかる本』中経出版 2002 年
西山茂『英文会計の基礎知識』ジャパンタイムズ 2009 年

5. 講義予定

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 Balance Sheet の読み方①
第 3 回 Balance Sheet の読み方②
第 4 回 Income Statement の読み方①
第 5 回 Income Statement の読み方②
第 6 回 Cash Flow Statement の読み方
第 7 回 収益性の分析
第 8 回 効率性の分析
第 9 回 安全性の分析
第 10 回 成長性の分析
第 11 回 総合力の分析
第 12 回 ケーススタディ①
第 13 回 ケーススタディ②
第 14 回 ケーススタディ③
第 15 回 まとめ

6. 評価方法

活動状況 50点
課題 50点
合計 100点

7. その他

科目名	国際マーケティング特論			担 当 教 員 : 平敷 徹男 (学外)
科目名(英語)	International Marketing			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	集中講義 (後期)	非常勤講師 控室	期間中, 講義終了後

1. 講義内容

本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。

2. 履修要件

3. テキスト

テキストはありません。教材は講義の際に配布します。

4. 参考書

田内幸一・堀出一郎編著『国際マーケティング』中央経済社。
詩上茂登・藤沢武史『グローバル・マーケティング』中央経済社。

5. 講義予定: 1回3コマ相当

第 1 回	}	1 回目	講義紹介
第 2 回			国際マーケティングの基礎 (マーケティングとは?)
第 3 回			経営戦略と国際マーケティング
第 4 回			
第 5 回	}	2 回目	国際マーケティング環境
第 6 回			国際マーケティング機会の探索
第 7 回	}	3 回目	国際市場進出戦略
第 8 回			国際製品戦略
第 9 回			
第 10 回	}	4 回目	国際価格戦略
第 11 回			国際流通戦略
第 12 回			
第 13 回	}	5 回目	国際プロモーション戦略
第 14 回			国際マーケティングの将来展望
第 15 回			

6. 評価方法

- ① 講義での発表・質疑・討論への参加の程度
- ② 小レポート: 海外展開している企業のマーケティング事例レポート。海外展開をしている企業を事例として取り上げ、当該企業が自国内で行っているマーケティング戦略の相違についてレポートする。企業は海外展開している日本企業でも外国企業のいずれでもかまいません。
(A4用紙ワープロ書きで図等を含めて5枚程度をメドとするが、枚数にはこだわらない。
提出締切日: 3月6日 メール添付または郵送可)

7. その他

<連絡先>

琉球大学法文学部 総合社会システム学科 教官室: 895-8236 (法文617電話・FAX 兼用)

E-mail: heshiki@ll.u-ryukyu.ac.jp または, heshiki.jp@yahoo.co.jp

科目名	システム・シンキング特論			担 当 教 員 : 宮平栄治
科目名(英語)	System Thinking			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	315	火曜日・木曜日:14時50分~16時20分

1. 講義内容

経済政策や経営戦略を行った場合、当初の計画では予期しない副作用、競争相手からの反撃などに遭遇する。そのような計画を行う際、ブレインストーミング法、KJ法やロジカルツリー等で十分検討したはずである。何故そのような意図しない結果が生ずるのかについて、我々の社会におけるフィードバック、相互依存、経路依存性やタイムラプなどの複雑な動きを加味したのがシステム・シンキングである。

2. 履修要件

将来、政策や経営戦略分野を担当する者、官公庁における就職を考えている者が望ましい。

3. テキスト

1. John D. Sterman, Business Dynamics—System Thinking and Modeling for a Complex World, McGraw-Hill Higher Education 2000. 邦訳: 枝廣淳子・小田理一郎訳『システム思考—複雑な問題の解決技法』(東洋経済新報社 2009年10月)

2. 西村行功著『システム・シンキング入門』(日経文庫 2004年10月)

3. 茂木秀昭著『ロジカル・シンキング入門』(日経文庫 2004年7月)

4. 参考書

1. 戸部良一・寺元義也・鎌田伸一・杉之尾孝生・村井友秀・野中郁次郎著『失敗の本質』(中公文庫 1994年)

2. 佐藤允一著『問題構造学入門』(ダイヤモンド社 1984年11月)

3. 菊澤研宗著『組織の不条理—なぜ企業は日本陸軍の轍を踏みつづけるのか—』(ダイヤモンド社 2000年11月)

4. 高間邦男著『学習する組織—現場に変化のタネをまく—』(光文社新書 2005年5月)

5. 菊澤研宗著『「命令違反」が組織を伸ばす』(光文社新書 2007年8月)

5. 講義予定

第1回 集団的意志決定法

第2回 ブレインストーミング法、KJ法やロジカルツリー

第3回 ロジカル・シンキング

第4回 問題とは

第5回 政策とは

第6回 戦略とは

第7回 ロジカルツリー、要素間の因果関係および因果ループ

第8回 フィードバック、相互依存と経路依存性

第9回 システムとは—システム3階層とメンタルモデル—

第10回 因果ループの3要素—リンク、拡張・バランス・フィードバック、タイムラグ—

第11回 システムの原型—応急処置、問題転嫁、好循環、エスカレーション、成功の限界—

第12回 システムの特性—非線形、相互作用、経路依存性、反直感的、介入反応、制約反応—

第13回 システムの対処—認識の共有、原因探求、中間インパクト、ボトルネックなど—

第14回 外部環境と内部環境、メンタルモデルとダブル・ループ学習

第15回 システム・シンキングの応用

6. 評価方法

① レポートを5回作成する。

② 1回のレポートの点数を20点とし、合計点数で評価する。

7. その他

なし

科目名	情報・通信技術特論			担 当 教 員 : Ali Fathelalem
科目名(英語)	Information and Telecommunication Technology			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前	313	火：10：40～12：10 火：13：10～14：40

1. 講義内容 Course Description

Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.

2. 履修要件 Requirements

特になし

3. テキスト Text

To be specified at the first lecture

4. 参考書 References

To be specified at the first lecture

5. 講義予定 Schedule

- 第 1 回 Introduction to data and communication systems
- 第 2 回 Standards and role of related organizations
- 第 3 回 Radio communication and spectrum
- 第 4 回 Broadcast Communications
- 第 5 回 Broadcast Co
- 第 6 回 Wireless Communications
- 第 7 回 Wireless Communications
- 第 8 回 Modern Data Communications
- 第 9 回 Modern Data Communications 2
- 第 10 回 Communication Industry Culture
- 第 11 回 Legal issues
- 第 12 回 ICT Industry and Market
- 第 13 回 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 14 回 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 15 回 Summery and exam

6. 評価方法 Evaluation

Reports and assignments	50点
Exam	50点
Total	100点

7. その他 Other